

令和三年を振り返ると、前年に引き続き、ほぼ新型コロナに振り回された一年間であった。その間の出来事について回想してみたい。

前半はオリンピック・パラリンピックの開催について国論が二分されたが、結局強行された。オリンピックそのものが原因とは言えないが、期間中新型コロナウイルスの感染が拡大し医療が逼迫したことで、期

間終了後に開催の是非が厳しく問われた。日本選手の多くのメダル獲得は喜ばしかったが、予算をはるかに上回る巨額で不透明な支出など納得できないことも多かった。その後の検証も国民に知らされておらず、不可解なままである。

政治の上では菅義偉内閣は一年で岸田文雄政権へ移行した。新自由主義からの脱却と新しい資本主義への移行を掲げられてお



医界サロン

この一年を顧みて

広報委員 福田 吉彦

り、今後に期待したい。また、衆議院議員選挙では、大阪で「日本維新の会」が立候補した小選挙区で全勝した。保守票の多くが流れた。ひとつの政党に地方で議席が偏ることは好ましくなく、他の政党も小選挙区で議席を確保して種々の意見が国会に届くような形が望ましく思う。

プロ野球で優勝したのがともに昨年の最下位ヤクルトスワローズとオリックスバファローズで、初めての前年最下位同士の優勝であった。特にオリックスは25年ぶりの優勝で阪神・淡路大震災時の優勝を思い出し、時の流れの速さを感じた。前半は久しぶりに阪神タイガースが独走し優勝を期待させられたが、後半失速してしまい残念であった。また大谷翔平選手の大リーグでの二刀流の活躍は見事であった。

秋篠宮眞子さまと小室圭さんの結婚も大

きな話題になった。

この約二年間常に一番の話題は新型コロナであった。私も親戚のひとりが急に重症になり気管内挿管が必要で緊急入院したが、入院費用はすべて国費で賄われた。軽快後に転院したが、その入院費は退院時高額療養費制度を知らなかったのでかなり高額であったと聞く。その時まで健康に過ごしていた者にとって突然の病は準備ができておらず、また社会保障制度の内容を知らないのが本当に困る。医療だけでなく日本の社会保障は自己申告制であり、制度を知っているか否かで受益に大きな差が出る。我々医療者側もしっかり知識を持たないといけないと思う。

令和三年は家に閉じこもりの年であったが、令和四年は季節の景観を楽しむことができるような明るい一年になってほしい。